

## 4 道徳科の評価は、このような考えで行います。

### 評価の目的



目的は  
2つです。

個々の児童生徒の成長を促す。

教師自らの指導を評価し、改善に努める。

道徳科の学習活動における  
児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子

これを評価します。



- ✕ 数値などによる評価
- ✕ どれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定すること

### 評価の基本的な考え方

道徳科の学習活動における  
児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子

学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習して振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取る。

を評価するために…

このように  
評価します。



- ★ 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえる。
- ★ 個人内評価として記述式で行う。  
(他者との比較でなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます。)
- ★ 年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で行う。

- ✕ 一つの授業における学習状況のみを取り上げて評価
- ✕ 特定の内容項目ごとに評価
- ✕ 道徳性の諸様相である、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれについて分節し、学習状況を分析的に捉える観点別評価
- ✕ 調査書に記載し、入学者選抜の合否判定に活用

「勇気」の学習では、道徳的判断力を養うことができました。

